

- ◆「富士の麓で水を語らう～水のチカラ。多様な恵みや荒ぶる姿と暮らしの関わりを考える」をテーマとし、水が自然や人に与える様々な恩恵と問題について、市民、企業、学会、行政が幅広く討論や意見交換を行い、基調講演・分科会・市民団体発表、パネル展示を実施
- ◆シンポジウムの全体会議では、分科会の意見を集約し、「積極的に川と関わり、川の魅力を理解すると共に、正しく自然をおそれるすべを身につけよう」など、4つの「水に関する提言」を静岡・沼津から全国へ発信

日 時：平成30年8月23日（木）9:30～17:00
会 場：プラサヴェルデ（静岡県沼津市）
来 場 者：約400人

基調講演①：「水防災意識社会の更なる進化に向けて」
（国研）土木研究所 ICHARM 小池センター長

基調講演②：「伊豆半島ジパングで考える、水のチカラ・人の知恵」
伊豆半島ジパング推進協議会 鈴木専任研究員

第1分科会：「富士山が育む豊かな水と人との結びつき」

第2分科会：「狩野川台風から60年、これからの水害への心得と備え」

市民団体発表：「わき水田宿川委員会」「三島北高校」
全体会議

主催：第23回水シンポジウム2018inふじのくに・沼津 実行委員会
構成団体：（公社）土木学会水工学委員会、静岡県、沼津市、
国土交通省中部地方整備局



会場の様子



清水実行委員長の挨拶



来賓挨拶（左より、静岡県知事、沼津市長、中部地方整備局長）



小池センター長の基調講演